



1 3
1918
6 止



3
1918
6

大和事始卷之六目錄

勅植門 第十七

藏書印子

瀬谷文庫

京都府立総合資料館

昭和十九年
五月三日
小田島吉氏
友太郎氏
寄贈

馬牛一

畜獸二

魚八

金魚六

鵲三

草木七

鵝

五穀八

桑蠶上附

竹筍九

蒲陶十

麻十一

穀十二

蕎麥十三

松栢榲蘿樟

披十八

橘十六

柑十七

木綿十八

菩提樹十九

番椒二十

西瓜九一

相思草九二

秋海棠九三

佛家門 第十八

佛入日本 ホトケニ 九四	佛像 ブツガウ 九五	大佛 ダイブツ 九六	佛舍利 ブツゼリ 九七
僧 ソウ 九八	尼 アミ 九九	寺 テラ 三十	尼寺 アミテラ 九一
塔 タ 九二	九重塔 クヂウノタ 九三	佛經 ブツキヤウ 九四	法華經 ホツケキヤウ 九八
講經 カウスマウラ 九六	法華八講 ホツケハツカウ 九七	戒 カイ 九八	戒壇 カイダン 九九
一切經 イツサイキヤウ 四一	偽正 ソウジヤウ 四十一	偽都 ソウツ 四十二	國師 コクシ 四十三
律 リツ 四十四	阿闍梨 アジャリ 四十八	禪 ゼン 四十六	偽錄司 ソウロクシ 四十七
大師 ダイシ 四十八	法親王 フシヤウ 四十九	御門跡 ゴモンセキ 五十	天台座主 テンダイザス 五十一
東寺長者 トウジノチヤウヂヤ 五十二	偽位 ソウイ 五十三	三綱 サンカウ 五十四	法眼 フゲン 五十五
			法眼法橋 フゲンホウキョウ 五十六

佛工網位 フツコウシカシイ 六	法師 ホウシ 六	修最勝王經 シュサイヤウワウキヤウ 六	佛名懺悔 フツミヤウカンゲ 九
僧免輦車 ソウニルカルンシヤ 六	僧聽牛車 ソウユカルギウシヤ 六	佛前垂帳 ブツゼンニタルチウワウ 六	安居 アンゴ 六十三
八宗 ハシュウ 六十四	禪宗 ゼンシュウ 六十八	淨土宗 ジヤウドシュウ 六十六	眞宗 シンシュウ 六十七
目蓮宗 ニチレンシュウ 六十八	時宗 ジシュウ 六十九	大念佛宗 ダイニブフツシュウ 七十	一向宗門跡 イツカウシュウモンセキ 七十
灌頂 カンチヤウ 七十二	山伏 ヤマブシ 七十三		

大和事始卷之六目錄終

大和事始卷之六

花笠外史

動植門 第十七

馬牛 一

保食^{ウケモチノカミ}祚^メ乃^ハ同^ニ馬牛^{ウマウシ}化^{ナレリ}。舊^{キウ}多^タ是^{コノ}牛^{ウシ}化^{ナレリ}始^{ハジメ}也^{ナリ}。

畜獸 二

保食^{ウケモチノカミ}祚^メ乃^ハ口^{クチ}より毛^ケ麋^{アラモノ}毛^ケ柔^{ニモノイッ}出^デ。祚^メ代^{タテ}是^{コノ}畜^{ウケモノ}の大小^{オホコチ}の^ノも^モと^ト云^{イハス}。是^{コノ}毛^ケもの^{モノ}の^ノも^モと^ト云^{イハス}。始^{ハジメ}也^{ナリ}。

鵲 三

推古^{スイコ}天皇^{ニギハヤヒ}六^ム乙^ニ亥^イ四月^{シツ}。難^{ナニ}波^ハ古^コ士^シ磐^{イハ}合^{カミ}。新^{ニラ}。

ひの郷也。
コトノモト

五穀 ココク 桑蠶 クハカイコ 八

神代卷よ云。軒遇冥智。値山姥よあひて。稚産

靈とうい。け神の氏のとよ。蠶と桑とまきり。

朕の中に又穀なり。是等も

竹筍 タカニナ 九

伊特儀。湯は凡根と投あひくふ。竹筍

と化せしむあり。舊く是竹の始也。

蒲陶 エビカツラ 十

伊井儀。馬と投あひくふ。化して蒲

陶とか。舊く是蒲陶の始也。

麻 アサ 十一

天照大神乃由時。麻織祖を白羽神と

麻と投て。是麻と投あひくふ。舊く

穀 カデ 十二

天照大神。は作見神とて。穀とくえて

く白幣帛と化し。めあふ。舊く

蕎麥 ソウバ 十三

仁明^{ニミヤ}天皇^{セウワ}御^ミ衣^イ衾^シ六^{ロク}白^{ハク}秋^{シュ}七月^{ニチ}。畿^キ内^{ナイ}必^{コト}司^シり
 令^{ミコト}一^{イチ}て。蒼^{ソウ}髮^{ハツ}と勸^{カネメ}後^ゴ一^{イチ}む。去^ト地^チの沃^{ヨク}瘠^{セキ}は
 刈^カつて。檣^{ハシ}將^{シユ}收^{シユ}獲^{ハク}なる秋^{アキ}中^{ナカ}にいて。こ
 稿^{カウ}梁^{リヤウ}の食^{シキ}とす。食^{シキ}はさるるをい^{モツ}く也^ヤ。後^ゴ同^{ドウ}
 紀^キ毛^{モウ}髪^{ハツ}を化^カるるにめ也^ヤ。

松^{マツ}栢^{カキ}楳^{ヒキ}檜^{ツタ}蘿^{スズキ}樟^{ナニ}

素^ソ戔^サ鳥^ニ号^{ミコト}れ斬^{キリ}あひ一^{イチ}八^ヤ岐^マ蛇^シの身^ミに殺^{ツタ}せ
 又^{マタ}松^{マツ}栢^{カキ}楳^{ヒキ}檜^{ツタ}肖^{シヨウ}うとより生^シをり^シとあり。舊^{キウ}
 化^カい時^{トキ}とてより。樹^キあり一^{イチ}也^ヤ。又^{マタ}素^ソ戔^サ鳥^ニ鳴^{ナリ}

号^{ミコト}嶺^{リョウ}嶺^{リョウ}と拔^{スベ}てとを^チを^ラあ一^{イチ}あ^ア則^{スナハチ}松^{マツ}とな
 然^{シカ}。胸^{ムネ}毛^{モウ}と拔^{スベ}あつ。櫓^ロとあり。眉^{メイ}毛^{モウ}はとれ櫓^ロ樟^{チヤウ}
 とが^カあり。代^{ダイ}を

披^ヒ十^{ジュ}八^{ハチ}

素^ソ戔^サ鳥^ニ鳴^{ナリ}。尻^{シラ}毛^{モウ}と拔^{スベ}あ。とれ披^ヒとが^カあり。あこ
 ち^チ衣^イ衾^シして曰^{イハレ}。披^ヒハ^ハ衣^イ衾^シ蒼^{ソウ}生^{セイ}奥^{オウ}付^フ素^ソ戔^サ鳥^ニ將^{シユ}
 外^{ソト}と具^グはすべ一^{イチ}。代^{ダイ}毛^{モウ}ハ^ハ櫓^ロの用^{ヨウ}はすべ一^{イチ}
 とあり。也^ヤ。とて披^ヒとが^カ櫓^ロの用^{ヨウ}はすべ一^{イチ}
 て。外^{ソト}は^ハ用^{ヨウ}ありと忘^{ワスレ}。

十六

スイミン
 三カ
 聖仁天皇九十一年壬寅二月。天皇チンノミヤ。回道ミチノセ。守モリり
 命ミコトトて。考トコヨシ世ヨよりツカハて。北ホ付キレシ香カ果コ紙ミ求モトメ
 今イマ橘ダイダイと云イハレ乞イタダキなりと曰イハレ也ナリ。紀キよリるルを
 乞イタダキ橘ダイダイ乃ハ曰イハレ中ナカよリ奉ホウ御ミ始ハジメ也ナリ。

カウジ
村
十七

聖武天皇^{シヤウム}作^ニ壺^キ二^ニ通^ニもろろよりより^{カウシ}梅子の^シ

木綿 十八

類聚國史卷百九十九殊俗部二曰。植武天
 延曆十八年。一人ありて小船に乗。三河
 島より漂着せり。布とて蓑紙を穿て。懷鼻を
 穿て。袴と着せり。たの肩は緋布の形を
 裳に似たるものと着せり。年九十九あり
 て。身は五尺五寸。耳の長三寸あり。その髪ハ
 白く通せり。何れの人と云ふを問ふ。大唐
 の人焉と云て。食曰。崑崙人也。後頗中島の

ろ下よあけり。

菩提樹 十九

僧榮西子光案より修して。建久えの乃志。

純忠香椎乃神祠代わりのうゆ。是より

めなり。秋書今系部 醫ふあゝあり。西れ菩提

樹ハ。是香椎より将子と修へ度めり。や。

椎よ今ハ。

番椒 二十

外ハ。あゝよりて。其形ハあり。目ハあり。

長氏朝報をうゝせし。時。あゝめて

来より。あゝ。廉こせり。と云。

西凡 二十一

寛永中。より。より。修りて来る。

相思草 二十二

受と十の。始て目ハ。海。己は飲食

秋海棠 二十三

寛永の始。始て。あゝ。より来る。

佛家門 第十九

佛入日本 九四

佛法我ほよ始て来る。目也紀を考あり。
 欽明天皇十三の十月、而伊聖明王使とを
 して、釈迦佛の金銅像淨瑠璃若干卷、紙、故
 て云。毛法依法乃中にあめく、寂殊勝なり。
 い法よくを量るを造る後、徳果報とせ、此の
 情よ依てあなり、いと云ふなり。是より
 天皇やかりて歡喜。おあまねく群臣

は同てのこまり。西蕃より佛礼すべ
 きや否。我大長、稱曰宿願奏して、
 西蕃より、のこり、皆く、我礼と。是、秋、日、置
 獨そむんや。物部大連尾輿、中、長、連、強、子、曰
 しく奏して曰。さうどの天下よ、まじ
 ず、次、は、のこり、地、社、稷、百、八、神、を、い、く、ま、ま、秋、
 冬、よ、あ、あ、ね、と、う、と、ん。今、よ、方、て、改、て、萬、神、と
 ぬ、せ、ん。お、さ、さ、さ、く、ハ、國、神、也、怒、を、改、と、ん。天、皇
 曰。さ、さ、さ、ハ、情、教、人、よ、授、へ。稱、曰、宿、願、を

して先^{チキネン}天皇^{ニシラ}より陛下^{ハイカ}に及^{ユキ}んで。瘴^{シヤウ}疾^{シツ}流^{リウ}
 りて。咄^{シニサ}ぬ^{タタ}る^{タタ}人^{タタ}とん。毛^{モウ}薙^{ハツ}我^カ臣^{シン}の佛法^{フツハフ}
 と負^{ヨサ}り^{キヤウ}す^{キヤウ}所^{キヤウ}ある^{キヤウ}あ^{キヤウ}る^{キヤウ}や。信^{シン}じて回^{ヨロシ}。宜^{ヨロシ}く
 佛^{フツ}法^{ハフ}を斷^{タツ}へ。う^{モリ}よ^ヤあ^フわ^{ホム}て^{ムラ}も^ラ金^{キン}文^{モン}連^{レン}う^ラ
 らあ^{テラ}る^{フデ}。胡^コ床^{トウ}は踞^{キリ}坐^{タラ}て。も^{タラ}端^{タラ}と^{キリ}所^{タラ}信^{タラ}。火^{ヤキ}
 と燃^{ハナチ}て^{ハナチ}これと^{ハナチ}や^{ハナチ}る^{ハナチ}。異^{フツ}佛^{サウ}像^{ザウ}と^{フツ}佛^{サウ}殿^{テン}と^{フツ}を^{フツ}焼^{ヤキ}て。
 燒^{ヤキ}佛^{フツ}と^{フツ}亦^{フツ}の^{フツ}佛^{フツ}像^{ザウ}と^{フツ}あ^{フツ}て。新^{ナニ}波^ハ城^{ホリ}に^エは^{ステ}棄^{ステ}む。
 損^{ソン}軒^{ケン}飛^{フイ}云^{クハ}。中^{チュウ}華^カ始^{ハジメ}て^{ハジメ}浮^フ屠^トと^フ好^コもの^コの^コハ^コ楚^ソ王^ワ
 英^{エイ}なり。我^{ワカ}邦^{ホウ}始^{ハジメ}て^{ハジメ}佛^{フツ}法^{ハフ}を^{フツ}信^{シン}ず^{フツ}る^{フツ}もの^{フツ}の^{フツ}ハ

獲^ソある^ガ子^ノ也^ミ。楚^ソ王^ワ英^{エイ}ハ^ソ叛^{ハン}と^ソ信^{シン}の^{シン}乃^ノ賊^{ゾク}子^シは^ミ
 して。楚^ソ王^ワ英^{エイ}ハ^ソ明^{メイ}帝^{テイ}の^{テイ}弟^{テイ}也^ミ。も^ム係^{ヘイ}叛^{ハン}の^{ハン}もの^{ハン}。る^ル子^シハ^ミ毛^{モウ}
 君^{キミ}被^{ヘイ}弒^シす^シ所^シ乃^ノ乱^{ラン}也^ミ。子^シ蒙^{モウ}毅^イ帝^{テイ}と^{テイ}弒^シす^シる^シ。あ^ア
 れ^レは^ハ佛^{フツ}の^{フツ}身^ミの^ミら^ミあ^ミる^ミ。佛^{フツ}氏^シの^シも^ミう^ミる^ミ。あ^アう^アれ^レハ^ミあ^ミ
 る^ル凶^{キョウ}亂^{ラン}賊^{ゾク}の^{ゾク}身^ミの^ミら^ミあ^ミる^ミ。佛^{フツ}氏^シの^シも^ミう^ミる^ミ。あ^アう^アれ^レハ^ミあ^ミ
 佛^{フツ}教^{キョウ}の^{キョウ}世^{セイ}は^ミ益^{エキ}な^ミく^ミして。人^{ジン}偏^{ヘン}は^ミ害^{ガイ}ある^ミま^ミ
 亦^{モト}知^チぬ^ミへ。世^セ俗^{ゾク}は^ミ佛^{フツ}氏^シの^シ經^{キョウ}教^{キョウ}と^シ信^{シン}ず^{フツ}る^{フツ}。
 邊^{ツイ}は^{モリ}守^{モリ}屋^ヤと^{サシ}橋^{サシ}て^{ギヤク}運^{ギヤク}良^{レン}と^ミん。あ^アう^アれ^レハ^ミあ^ミ
 邪^セ教^{キョウ}格^{カク}乃^ノ忠^{チュウ}臣^{シン}あ^ミて。西^{セイ}氏^シ宗^{ソウ}乃^ノ楊^{ヤウ}士^シあ^ミあ^ミ
 る^ルと^ミあ^ミる^ミ。か^カの^カ魔^マ戸^コ鬼^キ子^シ乃^ノる^ル子^シは^ミあ^ミあ^ミ

然らぬと云ふ長と天と戴うが所は難也。崇峻天皇
 戸皇子の御弟の叔父にて且君なれば。皇太子
 人を仇と報ひ給ふ所や。天皇
 と好の所を以て。始終するものと志は同一と
 をたみ。遂に君父の仇は黨一。罪なり
 守るに殺して。それ成させり。然るに世
 俗に道と云ふは神の御心。是るより
 乱賊のこゝに在るも。いふに人おれは。
 是非を悔す所なき。若し其聴めず。
 そ不仁不義なり。て人よりするもの

けふの世に。孔子曰。亂臣賊子。必誅焉。
 我ちもよかて。これを信ぜ。又曰。亂臣賊子。
 必誅焉。我ちもよかて。これを信ぜ。又
 吾人。ことか。君父の仇。めやす。
 が。人。仇。國。周。て。実。と。亂
 れ。く。れ。か。い。人。や。お。れ。
 非。か。か。の。ハ。察。せ。す。ん。じ。も。え。う。次。
 ○好。友。と。云。ふ。佛。法。の。天。地。を。も。む。こ。
 理。よ。あ。ら。う。い。ふ。一。の。法。を。も。む。

子ハ。ま子入^{イルカ}麻とたよ暴^{ボウ}魚^{アツ}セドて一族^{ソク}
 滅^{メツ}亡^{バウ}と。又^ム厩^ヤ戸^ト皇子^{ノウジ}ハ。ま子^ヤの^{シロ}子^コ
 五^ゴ乃^ノ時^キも^ミ至^ミて。入^{イルカ}麻^マが^{タメ}る^{ホロホ}よ亡^{サイ}れて^シ書^{サイ}子^シ
 一族^{ソク}二十^ニ八^{ハチ}人^{ニン}皆^{ハレ}死^シう^セ終^{ハレ}ふ。い^コあ^ウ人^{リウ}ハ^ウ目^メ
 かい^ハよ^ハして^{フツ}佛^{ハフ}法^{ハフ}と^ハ始^{ハジメ}く^{コウ}自^{リウ}陸^ウせ^ハ一^ハ人^ニあ^リ
 る。二^ニ代^ニか^ニう^ニす^ニて。ま^シ子^ン孫^ン滅^{メツ}亡^{バウ}と^ハ忽^{タチ}ち^チ
 ろ^スろ^スび^スて。ま^ス末^ハ也^ナ殺^スめ^タる^タる^タ。始^{ハジメ}と^ハ終^{ハレ}る^タ
 る^タか^ニう^ニす^ニや。佛^{ブツ}は^ハい^ハ人^{ニン}倫^{リン}の^ハ乃^ハ滅^{メツ}亡^{バウ}と^ハ又^ム教^{キョウ}
 連^{タツ}天^{テン}皇^{スミ}ハ。ま^ハの^ハま^ハ佛^{ブツ}の^ハ迷^{マヨ}ひ^ヒす^スと^ハ人^{ニン}

とも^{カタ}堅く禁^{キン}じてとれと絶^{タテマツ}えし
ありや。十四年^{エキニッ}は疫疾^{ヤクビヤウ}あり行^{ユコナ}つたぬ。^ト
と^{ウラヒ}トに。必^{タリ}神の祟^{タリ}を治^シめしむ
まハ。始て佛と禁^{キン}ぜらるゝた。祓^{ホド}なく
そ年乃八月^{ミカトホウ}は帝^{ミカド}崩^{フサグ}り。用明天皇^{ヨウメイ}
も。佛^{ブツ}はなつたふせむひ^{ゴロ}ー^グ後^{クラヒ}は即^{ツキ}あひ
て二^{アタ}も^ニあ^{アタ}は五月二日^{イハレカハ}。磐余川^{ホトリ}のと^{ホトリ}
新^{ニハ}嘗^{ナヒ}きこ^{ナヒ}め^{ナヒ}ん。この月天^{ヤマヒ}皇病^{ミヤノヤマト}と^{ミヤノヤマト}めて。^{ミヤノヤマト}
は還^{カヘリ}入^{カヘリ}る。般^{ガン}良^{レン}佐^サ佐^ザを^{ガシ}たり。天^{テン}皇^{ミヤノヤマト}群^{グン}臣^{シン}

禁^{キン}褻^シは佛^{ブツ}骨^{コツ}紙^シへ天子上皇かのく穀月

多^ダク皇^{テニ}乃^ヲ内^ニおきてよ背^{ソムカ}せあひ。俊^{シニ}明^ニ極^ニを

致せしむ。そのわし。のうし。も。そのわし。
 西邊教に。よりぬ。ま。ハ。一族。終。よ。始。なく。は
 うひぬ。を。代。武田。信玄。など。も。甚。佛。と。信。せ
 一人。か。あ。が。その。縁。ゆ。う。ひ。ぬ。け。終。甚。ぬ。
 類。と。推。し。あ。る。へ。

佛像 九

欽明天皇十三。乙未。百。餘。年。より。佛像。始。造。
 日本。乙未。中。は。佛像。あり。始。造。日。十四。乙未。
 月。倭。直。海。は。へ。て。樟。木。の。海。は。浮。で。於。龍。

を。れて。天皇。乙未。中。は。畫。工。は。余。り。て。佛。像。を
 造。し。し。む。日本。乙未。中。は。佛。像。を。造。る。始。造。推
 古。天皇。十三。乙未。月。朔。日。天皇。太子。大。兄。及
 然。王。後。臣。は。信。し。て。共。は。同。く。世。教。と。教
 して。始。く。銅。鑄。大。六。乃。佛。像。各。一。軀。と。造。
 ら。し。む。外。鞠。化。多。と。云。もの。は。命。り。て。
 佛。と。造。る。工。と。人。日本。乙未。中。に。銅。鑄。乃
 仏。像。と。信。の。始。造。孝。德。天皇。乙未。年。漢
 山口。直。大。兄。臣。等。も。て。千。佛。像。刻。む。日

紀元子勝佛と作り始也。

大佛 九六

聖武天皇天平十又自十月始て大佛營
 他ろ始あり。孝謙天皇天平勝寶四年
 四月又とて大仏の像來て始て開眼あり。
 是則今た東都乃大仏ありて目
 大佛あり始也。又徳仁天皇
 地震よりして大仏の背あけるが傳和天皇
 の時よりとて新造なりぬ。又徳実親王
 治承四年

自十二月廿八日。平相玉清盛のありより
 て。大仏像原より。堂舎煨焼とかな。
 承安二年四月十九日。大宋王の陳和卿と
 て。始て大仏の形を造らせし。日又月又
 又目よりとて成就せり。建久元年七月又七
 日。大佛殿の母屋柱二本始て朽之。同十月十
 九日と棟。法皇内幸あり。建久六年三月十
 二日代表あり。將軍光朝の来詣せし。後
 鳥羽院行幸しあり。卿相雲密めく伏せし。

南都大仏の寸尺。新井君載る

モ
切ツ法トク
何ナニコト

とゞね偽り来り。

基のハ菩薩の号を授け内。天位と云ふ
 神作の皇女より多ひて。天上天位なり。
 又出家し多ひて。騰満と改名し居る。
 又天位出家の始也。の類なく。仏法を
 信し多ひし。うた。何れに登もなく。却て
 内子孫の如く。後多ひけり。その後彼又仏
 同縁せし。と。源頼朝の多く。金銀米穀
 消費して。後へ。再興あり。けある。國東
 より。御座不及男女れ。云々まで。おつ。建治

と系し。よのほ。ひ。な。ぬ。仏公。伏在あり。
 子孫に近。伏在。む。う。道。一。と。也。そ。な。れ。
 物。お。授。川。乃。橋。れ。伏在。聴。字。は。情。で。り。
 子。一。薨。せ。り。内。そ。子。孫。得。多。度。り。紙。
 遂。は。わ。い。て。び。て。そ。末。也。く。抱。き。り。は。多。
 ぬ。伏。も。大。仏。再。興。は。力。と。そ。へ。伏在。あ。り。
 幸。し。多。ひ。し。が。永。久。乃。乱。より。り。我。も。よ。
 せ。め。し。か。れ。下。の。あ。り。は。父。子。又。人。の。ハ。
 帝。皇。二。人。ハ。皆。を。承。は。流。さ。し。失。う。ひ。ぬ。又。を。

世^セを^トヨ^トミ^ミビ^テヨ^シコ^ウヲ
 秀^シ吉^キ公^{コウ}天下^{テノカ}此^{コノ}財^{サイ}と^シあ^ハつ^メめ^ス。大^{ダイ}将^{シャウ}介^ケ
 公^{コウ}乃^ノ人^ニ又^{マタ}と^シ若^ニく^ル。平^{ヘイ}安^{アン}城^{シヤウ}は^ハ方^{ハウ}廣^クち^シと
 開^{ヒラ}き^テ大^{ダイ}殿^{テン}と^シ建^{コン}立^{リツ}す。南^ナ部^ホの^ノ東^{トウ}大^{ダイ}寺^ジを^シめ^ス
 越^コえ^テ大^{ダイ}仏^{ブツ}と^シ造^{サウ}立^{リツ}せ^テし^メる^ヲ。後^ホに^ニく
 地^ヂ震^{シン}して^シ大^{ダイ}像^{ザウ}崩^{クツ}れ^タ。又^{マタ}再^サ興^{キヤウ}を^シめ^ス
 上^{ダイ}大^{ダイ}仏^{ブツ}供^{キヤウ}養^{ヤウ}ハ^ハま^ニせ^テし^メる^ヲ。八月^{ハチグヒ}廿^ニ三^{サン}日^{ニチ}か^レり
 秀^{ヒデ}吉^{ヨシ}公^{コウ}乃^ノ薨^{コウ}去^{キヨ}ハ^ハ八月^{ハチグヒ}十^{ジュウ}八^{ハチ}日^{ニチ}也^{ナリ}。大^{ダイ}仏^{ブツ}造^{サウ}立^{リツ}せ^テ乃^ノ
 功^ク徳^{トク}あ^ハる^ヲ。せ^テめ^テハ^ハも^モ供^{キヤウ}養^{ヤウ}よ^クな^リ。元^{ゲン}弘^{コウ}
 二^ニ年^{ネン}と^シあ^ハり^ニハ^ハあ^ハる^ヲ。

も^モあ^ハる^ヲな^リず^ナ。そ^ソの^ノ後^{ノチ}彼^{カノ}等^ラは^ハ往^{オウ}々^ニ回^{クハ}
 縁^{エン}に^ニく^ル。秀^{ヒデ}吉^{ヨシ}公^{コウ}乃^ノ建^{コン}立^{リツ}せ^テし^メる^ヲ。子^シ
 と^シせ^テ内^{ウチ}に^ニ父^フ子^シを^シめ^ス。元^{ゲン}弘^{コウ}二^ニ年^{ネン}と^シあ^ハり^ニハ^ハあ^ハる^ヲ。子^シ
 孫^{ソン}に^ニく^ル。大^{ダイ}仏^{ブツ}と^シ造^{サウ}立^{リツ}せ^テし^メる^ヲ。後^ホに^ニく
 興^{キヤウ}立^{リツ}す。乃^ノ佛^{ホツ}と^シを^シめ^ス。元^{ゲン}弘^{コウ}二^ニ年^{ネン}と^シあ^ハり^ニハ^ハあ^ハる^ヲ。そ
 こ^コに^ニく^ル。功^ク徳^{トク}を^シめ^ス。一^{イチ}人^{ニン}と^シ奉^{ホウ}
 あり^ニ。乃^ノ子^シ孫^{ソン}乃^ノ終^{シュウ}結^{ケツ}す。ハ
 仏^{ブツ}を^シめ^ス。乃^ノ好^{コウ}む^ヲ。元^{ゲン}弘^{コウ}二^ニ年^{ネン}と^シあ^ハり^ニハ^ハあ^ハる^ヲ。天^{テン}照^{シャウ}大^{ダイ}祚^{ソク}の^ノ内^{ウチ}
 子^シ孫^{ソン}。祚^{ソク}代^{ダイ}より^{ヨリ}今^{イマ}に^ニあ^ハり^ニハ^ハあ^ハる^ヲ。我^ワ公^{コウ}乃^ノ主^{シュ}と^シ

外^{シヤウ}軍^{クニ}家^ケと始^{ハジ}め、公^{コウ}家^ケ武^ブ家^ケあま^{コク}主^{シユ}都^ト司^シ
 のく^ノく^クは^ハ印^{イン}の^ノま^マて、大^{ダイ}祚^{ソク}乃^ノ少^{シウ}子^シ孫^ソ天^{テン}下^カ
 は^ハら^ラく^クあ^アる^ルは^ハ。宇^ウ内^{ネイ}は^ハ類^{ルイ}カ^カれ^レる^ル也^ヤ。
 但^ダ佛^{ブツ}理^リは^ハお^オわ^ワて^テい^イ。さ^サも^モと^トも^モさ^サ又^{マタ}よ^ヨう^ウね^ネ
 る^ルと^トす^スる^ルさ^サよ^ヨや^ヤ。さ^サも^モと^トも^モを^ヲ代^{ダイ}む^ムる^ルに^ニ
 可^コは^ハ罪^{サイ}人^{ニン}と^ト斬^{キル}と^トい^イく^クも^モ藝^{ゲイ}と^トい^イて^テ世^セと^ト
 後^{ワタ}り^リよ^ヨん^ンぐ^グと^トす^スり^リも^モあ^アり^リ。は^ハら^ラく^クも^モ人^{ニン}
 の^ノ未^{スヘ}知^チ見^ミき^キく^クは^ハ。悉^{シツ}く^ク子^シ孫^ソの^ノ死^シと^トい^イふ^フも^モ。
 人^{ニン}と^ト伐^{キル}な^ナ。さ^サか^カ人^{ニン}は^ハ罪^{サイ}人^{ニン}と^トい^イふ^フも^モ。テ^テ他^タの^ノさ^サら^ラ
 其^シの^ノ人^{ニン}と^ト殺^{コロス}と^トい^イふ^フも^モ。さ^サら^ラの^ノ不^フに^ニな^ナる^ルは^ハじ^ジ

へ^ヘの^ノ死^シと^トい^イふ^フも^モ。天^{テン}の^ノせ^セめ^メ。さ^サよ^ヨら^ラり^リて^テ思^シ
 へ^ヘ。彼^カと^トい^イふ^フも^モ。佛^{ブツ}と^トい^イふ^フも^モ。この^ノむ^ム人^{ニン}乃^ノ子^シ孫^ソの^ノ
 死^シと^トい^イふ^フも^モ。さ^サら^ラは^ハ。是^{コト}は^ハ。天^{テン}の^ノせ^セめ^メ。
 て^テは^ハ世^セは^ハ福^{フク}あり^リと^トい^イふ^フも^モ。類^{ルイ}カ^カれ^レる^ルに^ニ
 時^ジは^ハ。さ^サら^ラの^ノせ^セめ^メと^トい^イふ^フも^モ。さ^サら^ラの^ノせ^セめ^メと^トい^イふ^フも^モ。
 是^{コト}は^ハ。さ^サら^ラの^ノせ^セめ^メと^トい^イふ^フも^モ。我^ガの^ノ神^{カミ}は^ハ。
 と^ト。西^{サイ}戎^{ジウ}の^ノ佛^{ブツ}は^ハ。是^{コト}は^ハ。吾^ガの^ノ神^{カミ}と^トい^イふ^フも^モ。
 是^{コト}は^ハ。人^{ニン}の^ノさ^サら^ラの^ノせ^セめ^メと^トい^イふ^フも^モ。は^ハ二^ニと^トい^イふ^フも^モ。
 是^{コト}は^ハ。考^{カウ}る^ルは^ハ。是^{コト}は^ハ。他^タと^トい^イふ^フも^モ。

子。も世^{ミヨイタリ}に^{カタ}望^{カク}し。よくとまをやうもの
 たり。きく^{レイヤヤカク}鈴羊角よくとれとやう。汝^{ナニモヤ}
 あは^ア世^{ヨイ}で^{コロム}試^シべし。そ子^チ父^フれ^レ食^シ食^シを^{ヤケ}
 あは^ア乃^{ヨキ}。鈴^{レイヤヤカク}羊角よくとれ。彼^{コノ}公^{キミ}齒^シを^{キキ}叩^キき
 ぬ。も^テ不^フ意^イとして^{タテ}碎^{クサ}ぬ。それよりなるもの
 お止^{ヤミ}む。と^{ホニ}草^{カサ}を^{カカ}考^{カウ}る。金^{キン}別^{ガク}之^ニ西^{サイ}域^{イキ}
 より出^{イツ}。状^{カタチ}は^シ英^{セイ}乃^エ如^{コト}し。百^{ハク}練^{レン}して^モ巨^{キョ}
 流^{セウ}せ^バん。わよくとれと^{ウツ}整^ツす。好^{コト}し。そ
 鈴^{レイヤヤカク}羊角よくとまを^{シゼン}と^リて^リバ。お^リ自^ジ然^{ゼン}なり

乃^{トク}こく^{トク}津^{トク}と^レ人^ニ。又^{マタ}獺^タ骨^{コツ}と^{イッ}仍^リて^{ホトケキバ}佛^{ブツ}牙^ハ
 は^シ似^ニり。それ又^{マタ}わよく^{タテ}破^タら^タす^タあ^タへ^タん。そ
 色^{レイヤヤカク}鈴^{レイ}羊^ヤ角^{カク}と^ウく^ウて^バお^{クサ}碎^{クサ}く^タあり。
 司^シる^バ也^{タツ}等^{トウ}が^ム子^コは^{ケニ}秋^{アキ}せし^{ブツ}佛^{ブツ}齒^シも。金^{キン}別^{ガク}
 云^{セキ}う^{ハシ}獺^タ骨^{コツ}を^{コソ}あ^ハへし。我^ワ必^{カニ}し^ニ傳^フ夷^エな^キく
 て^{イッ}仍^リて^{コタ}後^{タイ}代^{タイ}り^{ツタ}傳^{ツタ}つ^タと^タし^タひ^タの^タも。

傳 九八

新^{キン}天^{テン}皇^{メイ}乃^ハ時^{トキ}始^{ハジ}て^タ傳^{タテマツ}道^{ダウ}深^{シン}お^ラ七^シ人^ニと^{タテマツ}勢^セ。同
 十^{ジュウ}八^{ハチ}也^ヤ。傳^{ドン}曇^{ドン}お^エ九^ク人^ニ來^キて^タ。深^{シン}お^ラ七^シ人^ニ

代り。目おれよ。是れ必し傷あり。婚也。崇峻天皇
 三年。司馬達磨が子多須奈と云ふもの出家
 して。名と徳女法師と云。是目おれとて出家
 乃婚也。目おれ。聖武天皇。弘治二十八年。代後。内
 侍。皇女多岐姫とゆづりて出家。一あり。是
 天子出家の婚也。一系院の所時。後。及。大
 和兼家病よりりて出家せし。是人。出家
 家の婚也。は統元

尼 九 九

敏達天皇六年。冬十一月。百濟王我乃使
 大別王の母を付て。比丘尼と称り。目おれよ
 是れ必し尼あり。婚也。月十二。百濟王我乃使
 孫司馬達磨が女とて出家せし。是。若
 尼と云。時よ。年十一。衆也。目おれ。是れ必し人
 尼と云。婚也。

寺 三 十

欽明天皇十三年。百濟王我乃使
 孫司馬達磨が女とて出家せし。是。若
 尼と云。時よ。年十一。衆也。目おれ。是れ必し人
 尼と云。婚也。

同日宿禰^{イナメノスクリ}に賜^{タマハ}ふ大^{ダイ}臣^シ跪^{クニ}交^カて祈^{イノ}祝^{イハヒ}し

家^{イヘ}氏^{ウヂ}降^{ユメ}授^{ハシ}てち^チと^ト人^{ヒト}日本^{ニッポン}紀^キに及^{およ}ぶ

是^{コノ}古^{コノ}代^ノ始^{ハジメ}也^{ナリ}。向^{ムカハ}來^キる^ノの^ノ址^シハ。大^{オホ}和^ワ寺^ジヲ^ヲ市^シ郡^{クニ}古^{コノ}市^シ村^{ムラ}にあり。今^{イマ}ハ西^{ニシ}條^{ジョウ}寺^ジと云^{イハ}ふ。祿^{ロク}佐^サ佐^サ小^コ也^{ナリ}。

尼寺^{アヒデラ} 三十一

日本^{ニッポン}紀^キに。崇^{シユ}峻^{ジュン}天皇^{テンノウ}三年^{ニシ}春^{ハル}二月^ニ辛^シ酉^ウ三月^{ミチ}辛^シ巳^イ日^{ニチ}。

吉^{キチ}佐^サ佐^サ。可^カ沙^サより吹^{フク}りて。櫻^{サクラ}井^イちと^チ佐^サ佐^サと

あり。是^{コノ}尼^{アヒ}寺^{デラ}乃^ハ始^{ハジメ}也^{ナリ}。聖^{セイ}武^ブ天^{テン}皇^{ノウ}天^{テン}平^{ヘイ}十^{ジュウ}一^{イチ}

年^{ネン}。始^{ハジメ}く^ク必^{カナラシ}母^{ハハ}よ^ヨ必^{カナラシ}父^フよ^ヨ尼^{アヒ}寺^{デラ}と^ト建^{タテ}し^シ也^{ナリ}。是^{コノ}

每^ミ必^{カナラシ}尼^{アヒ}寺^{デラ}あり^{ナリ}と^トい^イふ^フ也^{ナリ}。

塔^{タツ} 三十二

敏^{ミン}達^{ダツ}天^{テン}皇^{ノウ}十^{ジュウ}四^シ年^{ネン}春^{ハル}二^ニ月^{ゲツ}。蘇^ソ我^ガ大^{ダイ}臣^シ子^コ若^{ニク}。

祿^{ロク}塔^{タツ}と大^{オホ}和^ワ丘^キ北^{キタ}に起^{タチ}。日本^{ニッポン}紀^キに。是^{コノ}佛^{ブツ}塔^{タツ}乃^ハ始^{ハジメ}也^{ナリ}。

九重塔^{クナナナナ} 三十三

舒^{シュ}明^{メイ}天^{テン}皇^{ノウ}十^{ジュウ}一^{イチ}年^{ネン}十二月^{ニゲツ}。百^{ヒャク}沙^サ河^カ乃^ハ佛^{ブツ}也^{ナリ}。

乃^ハて九^ク重^{ジュウ}塔^{タツ}と建^{タテ}。日本^{ニッポン}紀^キに。是^{コノ}九^ク重^{ジュウ}塔^{タツ}乃^ハ始^{ハジメ}也^{ナリ}。

佛經^{ブツキヤウ} 三十四

舒^{シュ}明^{メイ}天^{テン}皇^{ノウ}十^{ジュウ}三^{サン}年^{ネン}。百^{ヒャク}沙^サ河^カ乃^ハ佛^{ブツ}經^{キヤウ}乃^ハ始^{ハジメ}也^{ナリ}。

と^ト始^{ハジメ}り。日本^{ニッポン}紀^キに。是^{コノ}日^{ニチ}中^{チュウ}乃^ハ佛^{ブツ}經^{キヤウ}乃^ハ始^{ハジメ}也^{ナリ}。

法華經 三十八

敏達天皇十六年。始て法華經傳り。其經

講經 三十八

日本紀と考るゝ推古天皇十四年秋七月。

天皇皇太子は傳て勝鬘經紙傳せしむ。

二日ハ祝をえぬ。このころ皇太子亦法華經

を思中宮に傳。舒明天皇十二年又月又日。

大は齋と役て。傍而強と傳て。無量壽經と

祝しむ。内裏、七齋と役け。勝鬘經紙傳す。

奉乞より始。又孝德天皇自維三夜

に月十四日。河門而強と傳て。内裏におゐる

無量壽經と傳せしむ。河門而強と傳て。無

量壽經と傳せしむ。河門而強と傳て。無

量壽經と傳せしむ。河門而強と傳て。無

量壽經と傳せしむ。河門而強と傳て。無

量壽經と傳せしむ。河門而強と傳て。無

量壽經と傳せしむ。河門而強と傳て。無

量壽經と傳せしむ。河門而強と傳て。無

て水害あり類をいふ。天皇は紙をへて。

法苑八傳 三十七

元亨親書よ云。延暦十の勅探を始む。

わ泉宮後尾寺の十傳世傳とけしめより始む。

目録して四日。一は御座座二衣なり。二衣は一衣を傳へ。毎

そ次同ハ大抵右より定む。その内ハ大抵をわけ傳へ。二衣

にハ傳へ。次せよ。二衣は傳へ。二衣は傳へ。二衣は傳へ。

戒 三十八

崇峻天皇の勅。我る子宿禰。百部傳を

傳て。文戒の法を。是日中。文戒の始也。

戒壇 三十九

孝謙天皇天平勝寶の年。是月。唐の鑑

真來。及四月。戒壇と云ふ。是月。唐の鑑

是日中。戒壇乃始なり。唐帝天平寶字の

是月。是月。是月。是月。是月。是月。是月。是月。

信義堂空華集よ云。む。目の中。壇と

文戒と云ふ。三の三。是月。是月。是月。是月。

ハ。西の人。是月。是月。是月。是月。是月。是月。

卷一

一切經
四十

備心
四十一

ワ
ツ
部
四十二

七

欽明天皇三十二年四月。勅部。德積とて
傷た。と。目。中。是。傷部。乃。始。也。天武天皇二

年十二月。傷義。來。と。く。小。傷部。と。目。中。

是。小。傷部。乃。始。也。文武天皇元年十一月。沙

門。道。眼。と。大。傷部。と。目。中。是。大。傷部。乃。始。也。

國。昨。四。十。三。

正。和。乃。始。聖。一。玉。昨。号。氏。賜。人。心。

昨。号。氏。乃。始。也。元。亨。新。出。

律。昨。四。十。四。

敏達天皇六年冬十一月。百。部。乃。律。昨。

と。敏。乃。目。中。是。目。中。乃。律。昨。乃。始。也。

目。中。乃。律。昨。乃。始。也。目。中。乃。始。也。天

武。天皇。十二。年。律。昨。と。任。ず。乃。始。也。

是。始。乃。始。也。天。武。天皇。元。亨。新。出。

書。乃。ハ。又。武。天皇。元。亨。二月。十八。日。元。亨。新。出。

若。任。付。昨。乃。始。也。是。付。昨。乃。始。也。

阿。闍。梨。四。十。五。

後。一。家。院。乃。始。也。元。亨。七年。十二月。乃。始。也。

宋^ゴ 梁^リとせし。阿^ア 周^{チウ} 梁^リ乃^ガ 号^ガ 叔^{タチ} 孫^{ソン} とくも。

叔^{タチ} 孫^{ソン} より 始^{ハジ} 傳^{デン}。え亨^{コウ} 報^{ホウ} 出^{シュツ}

禪^{ゼン} 師^シ 四十六

後^ゴ 宇^ウ 多^タ 院^{イン} 弘^{コウ} あえ年。宋^{ソウ} 國^{コク} 道^{ダウ} 隆^{リウ} 寂^{シヤク} と 溢^{ヨリ} と

賜^{タリ} 大^{ダイ} 是^シ 禪^{ゼン} 師^シ と云。後^ゴ 師^シ 乃^ガ 号^ガ こく

始^{ハジ} 傳^{デン}。え亨^{コウ} 報^{ホウ} 出^{シュツ}

僧^{ソウ} 錄^{ロク} 司^ジ 四十七

後^ゴ 融^{リウ} 院^{イン} 乃^ガ 康^{コウ} 曆^{リキ} 二^ニ 年^{ネン} 正^{セイ} 月^{ゲツ}。僧^{ソウ} 妙^{ミョウ} 葩^ハ 乃^ガ 作^{サス}

乃^ガ 号^ガ 叔^{タチ} 孫^{ソン} 乃^ガ 天下^{テンカ} 僧^{ソウ} 錄^{ロク} 司^ジ 任^ニ じ。僧^{ソウ} 錄^{ロク} の

号^ガ こく 乃^ガ 始^{ハジ} 傳^{デン}

大^{ダイ} 師^シ 四十八

清^{セイ} 和^ワ 天^{テン} 皇^{コウ} 貞^{テイ} 觀^{カン} 八^{ハチ} 月^{ゲツ} 十^{ジュウ} 日^{ニチ}。叔^{タチ} 最^{サイ} 德^{テイ} 乃^ガ

溢^{ヨリ} と 傳^{デン} 叔^{タチ} 大^{ダイ} 師^シ と 賜^{タリ} ひ。叔^{タチ} 仁^ニ 乃^ガ 慈^ジ 是^シ 大^{ダイ} 師^シ の

溢^{ヨリ} と 始^{ハジ} 傳^{デン}。大^{ダイ} 師^シ 乃^ガ 号^ガ こく 乃^ガ 始^{ハジ} 傳^{デン}。え亨^{コウ} 報^{ホウ} 出^{シュツ}

法^{ホフ} 親^{シン} 王^{ワウ}

堀^{ホリ} 河^カ 院^{イン} 康^{コウ} 和^ワ え年 正^{セイ} 月^{ゲツ}。仁^ニ 乃^ガ 慈^ジ 乃^ガ 自^ジ 河^カ 院^{イン}

親^{シン} 王^{ワウ} 乃^ガ 冊^{サツ} 乃^ガ 皇^{コウ} 子^シ 乃^ガ 家^ケ の 叔^{タチ} 親^{シン} 王^{ワウ} と 乃^ガ

乃^ガ 号^ガ こく 乃^ガ 始^{ハジ} 傳^{デン}。俗^{ソク} 乃^ガ 法^{ホフ} 親^{シン} 王^{ワウ} と云。え亨^{コウ} 報^{ホウ} 出^{シュツ}

御門跡 又十

醍醐天皇乃所時。宇多法皇東寺より遷
頂。内室と仁和寺に造らる。是内室に嫁
る。後世は御門跡と云ふも是より起る。
宇多法皇乃かたき。所かれは御門乃
跡と云義なり。

天台座主 又十一

淳和天皇天皇長元年。釈義真天台座主より
任。職義真より始。目本
任。職義真より始。目本

東寺長者 又十二

仁明天皇承和三年。傍実慧とあるを
任。実慧より始。起
任。実慧より始。起

傍位 又十三

白河院承保三年二月。仁和寺沙門性修
と叙。傍位性修より始。起
と叙。傍位性修より始。起

三綱 又十四

上座。都維那。らる。三綱と云。目本
み。天武天皇。元元年正月。三綱
み。天武天皇。元元年正月。三綱

伏^ク表^ヤすく云^ハあま^ニ三^サ總^{カウ}の名^ナけ^ケ時^{トキ}なり

中^{ナカ}海^{カイ}なり。

法^{ホウ}眼^{ガン}法^{ホウ}橋^{キョウ}法^{ホウ}印^{イン} 八十八

是^{コト}れ^ニ偽^{イツ}位^イ也^{ナリ}。清^{セイ}和^ワ天^{テン}皇^{スミ}貞^{マコト}観^{カン}六^ム年^{ネン}二^ニ月^{ゲツ}は

始^{ハジメ}く^ニ毛^{モウ}ら^ニ海^{カイ}く^ニり^ニく^ニ三^{サン}代^{ダイ}実^{ジツ}録^{ロク}よりなり。

佛^{ブツ}工^{コウ}綱^{コウ}位^イ 八十六

は^ハ一^{イチ}系^{ケイ}院^{エン}治^チ安^{アン}六^ム年^{ネン}秋^{アキ}七^{シチ}月^{ゲツ}。佛^{ブツ}工^{コウ}定^{テイ}朝^{チャウ}小^{コウ}法^{ホウ}

格^{キョク}上^{ジョウ}人^{ニン}位^イ叙^{キョ}授^{ジュ}海^{カイ}。工^{コウ}人^{ニン}の^ノ綱^{コウ}位^イ定^{テイ}約^{ヤク}よりなり。

一^{イチ}家^ケ元^{ゲン}亨^{コウ}。秘^ヒ也^{ナリ}。

法^{ホウ}作^{サク}入^ニ禁^{キン}中^{チュウ} 八十七

用^{ヨウ}明^{メイ}天^{テン}皇^{スミ}二^ニ年^{ネン}夏^カ四^シ月^{ゲツ}。天^{テン}皇^{スミ}病^{ヤメヒ}ありよりて。

定^{テイ}極^{キョク}部^ブ皇^{スミ}子^シ。孝^{コウ}武^ブ法^{ホウ}原^{ゲン}よりて。内^{ナイ}裏^リより入^{イル}。

目^メ中^{チュウ}是^{コト}禁^{キン}中^{チュウ}は^ハ法^{ホウ}原^{ゲン}より入^{イル}始^{ハジメ}也^{ナリ}。志^シく^ニれ^ニと^ト色^{シキ}

三^{サン}皇^{スミ}乃^{ナリ}病^{ヤメヒ}愈^{ユイ}也^{ナリ}。後^{コト}よりしきなり。

修^{シュ}最^{サイ}勝^{ショウ}王^{オウ}經^{キョウ} 八十八

仁^ニ明^{メイ}天^{テン}皇^{スミ}承^{セウ}和^ワ七^{シチ}月^{ゲツ}乙^イ酉^{ユウ}。大^{ダイ}極^{キョク}殿^{テン}よりて

始^{ハジメ}て^ニ最^{サイ}勝^{ショウ}王^{オウ}舎^{シャ}と^ト後^{コト}よりしき。後^{コト}目^メ中^{チュウ}に^ニ記^キ

仁^ニ明^{メイ}天^{テン}皇^{スミ}乃^{ナリ}中^{チュウ}時^{トキ}。内^{ナイ}裏^リよりしき。後^{コト}目^メ中^{チュウ}に^ニ記^キ

と^{ユナ}終^{ハナ}るを始^{ハナ}めひ。おは^{ハナ}るさ^{ハナ}終^{ハナ}り^{ハナ}あり
 き。お^{セツ}和^リみ^{ハナ}るに^{ハナ}内^{ハナ}裏^{ハナ}まで^{ハナ}灌^{ハナ}佛^{ハナ}。曰^{ハナ}七^{ハナ}年^{ハナ}は^{ハナ}仏^{ハナ}名^{ハナ}懺^{ハナ}悔^{ハナ}
 と^{ハナ}始^{ハナ}め^{ハナ}す。あ^{ハナ}う^{ハナ}は^{ハナ}るに^{ハナ}利^{ハナ}害^{ハナ}ハ^{ハナ}なく。こ
 の果^{ハナ}報^{ハナ}れ^{ハナ}く天^{ハナ}皇^{ハナ}の^{ハナ}造^{ハナ}り^{ハナ}め^{ハナ}は^{ハナ}ぬ。是^{ハナ}又^{ハナ}天^{ハナ}皇^{ハナ}
 の^{ハナ}向^{ハナ}背^{ハナ}と。お^{ハナ}は^{ハナ}るに^{ハナ}利^{ハナ}害^{ハナ}と^{ハナ}紙^{ハナ}知^{ハナ}へ^{ハナ}。

佛名懺悔
二十九

仁明天皇ニミヤノミコ御ミコ和ニギハヤヒみよ十二月ジュウニグハツ己亥ミツノイ天皇ミコ清涼セイリョウ
殿デン子コおゐて。佛ブツ名ナ懺ザン悔ケと終シュウせしむ。海カイより三
月ミツとゆくと。侍リツ所シヨ静セイ安アン大ダイ法ハフ師シ乳ニ安アン。實ジツ愛アイ。

決定乃^{グミテイタラキウラタカヒ}留^{タタ}ホ^モ施^シ又^タ導^{ダウ}作^{サク}と^モ如^ニ方^ハ。肉^{ニク}囊^{ナシ}と^モて^モ佛^{ブツ}

名^{ミヤウ}懺^サ悔^ゲと^レ欣^シ甘^ミく^レ向^ムふ。是より始^ハま^レ向^ムふ。後^{ノチ}

却紀

僧免輦車
六十

漢和天竺真觀六白。偽真雅。輦車と賜。

僧聽モツルサル牛車ギウシャ 六十一

後一條院寛仁四年春三月大倭心臥伝牛
車と聴ふ。沙の牛車臥伝より始ふ。之亭
紀出

佛前玄帳

六十二

推古天皇二十四年。新羅王より金網の珠勒
 像ガク二尺と授け、聖徳太子秦河勝ハシカハに調て
 同。佛像靈あり宜しく清淨地トヨキにあむ
 一よりて慈オホミにあすアハとゆえ、河傍
 殿ミヤと名て帳カキ居カすスにあむ。綿帳ワタカキと云て
 こゝとあり。是佛前ブツゼンの玄帳ソノカキ乃始也。廣隆寺
 安居ブツゴ 六十二

天武天皇十二年。夏。始て僧尼ソウニと傳て官中カミナカ

よ安居ブツゴと。月ツキ中。是安居ブツゴ始也。持統チトウ天皇
 又月ツキ内裏ナリよおめて始て安居ブツゴ傳カせス。先
 あふ。同ドウ也。

八家 六十四

三論宗

推古天皇三十三年。春。三月。高麗王

より慧ユヅシ灌カンと云僧ソウあり。三論宗サンロンシュとむカむ。
 又大寺オホテラの道ミチ為ナリ。其ソノ智チ能ササ
 又事コトへて。三論サンロン乃ナリ學ガクとけ。其ソノ後ノチ文武天皇モンムテン大
 寶ホウ元年ゴエン入唐ニッタウ。益タスク三論サンロン乃ナリ貴ミカきカりカぬ。

正史をえよと改て。然るにけ宗を唱ふ

法相宗 神皇正統記に云。けおハ貞後より

あり。唐の玄奘三蔵法師坐より傳してよみ

るめ。目の中定あわ尚 大藏冠の必に

より。玄奘の弟子よりいふ。改めは世

ともやくと。いまれけおハ玄勝侯と云人入

唐して西列の智周大師 玄奘二世は

ことと傳て流布しきとぞ。

俱舍宗 玄助始てこれ **成實宗** 正統記に云。俱舍

成實なりと云ハ小乘也。道慈律師のけ

七流布せしきと云ハ。後學の宗ありけり

け宗と云ふなり。元亨釈書に云。我日域

の俱舍成實ハ學より傳りて。家としてす。

律宗 振提寺 孝謙天皇天平勝寶六年唐の鑑

真和尚來りて。初く律宗と云ふ。然る

そけきと云ふ。以後順徳院建暦元年二

月。俊成法師來朝より傳く。衆僧は

て律宗と申ふ。それよりけ宗と云ふ

永年寺と云。建長元年八月遷化と云。又十

四。元亨。是曹洞宗の始也。

六十。浄土宗。建長元年の法門あり。

は多。相院の所。時。源空上人。馬谷よりありて。

修念。佛易。行。此。浄土門と云。てよりい。浄

土。家。始。あり。源空と云。今。元亨。大。作

浄土。家。の。教。多。の。門。流。あり。と。い。へ。ど。也。世

に。盛。に。流。布。す。所。ハ。法。為。西。山。の。二。流。なり。

法。為。流。義。と。云。ハ。法。成。と。人。の。才。子。は。聖。光

上人。舟。阿。統。後。善。守。ち。乃。開。山。と。て。そ。は。系。に

より。会。仏。つ。と。廣。む。統。後。より。と。ま。は。流。義。を

所。あり。法。為。流。義。と。云。也。又。西。山。流。義。と。云。ハ。

是。也。法。成。の。才。子。り。法。成。と。人。の。長。也。粟。生

乃。光。也。ち。は。居。て。念。佛。つ。と。弘。む。系。より。西

山。か。所。あり。西。山。流。義。と。云。と。う。や。

六十。真宗。世。は。一向。宗。と。稱。は。れ

順。徳。院。建。暦。年。中。より。法。成。と。人。の。才。子

親。鸞。と。人。の。長。也。け。宗。派。を。め。て。云。く。り

流布と。親書より十一代親王上人の時。
門跡と号と。親書始ハ慈徳和尙乃牙子ありて天台
緋空と名けり。又ハ法親の牙子と名けり。後
親書と改む。

六十日蓮宗 世ハ法親宗と稱す

龜山院文應中より。日蓮上人よりけ
宗と号りむ。是日蓮宗の始也。

時宗 六十九

伊豫守人河津七郎通弘が二男。出家して一
遍上人と云。是時宗の始祖也。一遍上人熊野

権親乃靈夢也。長なり。後宇多院
建治中より法親と号りて法親
也。是法親の始也。

大念佛宗 七十

崇徳院の大治二年大原春迎院乃良親上
人融通念佛と号りて始也。後宇多院
後醍醐よりけられ。いふて。後宇多院
不持乃ち及龜山と云。是法親の始也。又ハ
親也。後醍醐よりけられ。いふて。後宇多院

イツカウエーモンセキ
一向宗门跡 七十二

[illegible]

ニッホニコウキ
 日本後記に云。延暦二十四年九月
 丁卯トイトウミコトリ朔
 一キヨタキノミコ日。雄道タカヲノダウ場チウに
 あり。都ト會大壇クイダイダンと
 起ヲし。法シヨウ方フ智チ行キヤウ兼カネ侍サマの
 傍ソウにエラニ撰センく。灌頂カンテイと
 受ウケし。道ミチ陀タ修シュ儀ギ勅ゴニササ撰セン心シン能ニ延エニ秀シウ廣クハ受ウケ小コ日ニチ
 一ヒくクけケるルはハ部ブ家カのノ八ハチ人ニンあり。小コ時トキ乃ハはハ奉ホウ
 守モリ初ハジメ代ダイなニてテはハとト檢ケン校ゲウす。是コノをヲ密ミツ灌カン乃
 始ハジメ也

後行者小蘭と号^{カウ}を^{三升}

文政帝の御
ナニギハヤク
て難の苦すか

を以て業と云ふ。堀川百首水郷ありと云ふ。

乃 苔^{コナ}衣^{コロモ}のうとけさバ。冬よわりぬ。今^{イマ}日^ヒ

そう
す。
抄セウよ
山ヤマ臥フシ
ハ
出デ家ツケ乃
想ソウ乃ニ建ケン
と
あり。

れとく。乃建ハ。山^{サン}居乃^{マヨ}傍^{ソマ}。成^{ナリ}山^{ヤマ}外^{ガハ}と云ふ

や。今ハ一柱^{エシキ}乃^ニ秘^ヒ名^ナの^ノ名^ナと^トお^オお^オ。む^ム。役^{エシキ}乃^ニ

大^{ヲホ}筆^{ミツ}葛^{カヅラ}城^キと^キ應^{オウ}一^キ。修^{シュ}練^{レン}昔^ク乃^ノと^キ。被^キ葛^{カヅラ}

松ホクシは清セイ水スイノ泉イツミ躍アラフ欲ヨク界カイノ垢アカラ修シユ行ギヤウ孔シク雀ジヤク之ノ

呪ジュ法フ證ウ得ト奇ス異キにイ於ゲ術ニ。其ジ術ツを義ギ覺カるクは他ツに

そは フホミ子 大峯 カヅラキ 葛味と ケイレキ 経歴する人ありと。

聖寶傳モウボウソウヅヤウ 醍醐天皇タイゴの
よむく
大率ヲホミ子 葛城カツラキの若ク

飛ヒすスるルもモとト再サイ真マとトニニ寶ホウ院イン始シ祖ソ勝ヤウ覺ガク燈ゴニ傍ソウ

正ナカレ之流と傳ツタふ。それと南ミナミ山ヤマとん。句シラ河カハ院イン熊クマ

此系痛乃時聖護院此開山塔臺大僧正

ミ子 カツラキ ナン ギヤウ クギヤウ タグヒ スクナ
掌 葛 城 新 り 若 乃 類 少 人 也 け 道 々 走 道
廿ニ 夕千

とならぬ。そ^{シヤウ}貴^キとして^{サニザニ}三^{ケン}心^{ダウ}検^{ケン}授^{ダウ}となす。

一
 ねとむふと号す。ふやよ
 ホニザン
 ガ
 ヤ
 ホニザン
 タウガン
 ね

わろハ是也又け外ハ物ヲハ齒思冬前ハ炭山
の流義あり。

大和事始卷之六 大尾



